



国や言語、文化の学びをとおして見えてくるものを
大切にしてほしいです。

他国の人や文化を学ぶことは、
自分の国を知ることでもありますね。

奥山 思さん

輪田 直子教授

後藤 桃子さん

英語教師として

他の言語も理解して、
実際の教育現場にいかしていきたいです。

Talk

教員

人間学部 人間文化学科
輪田 直子教授

学生

人間学部 人間文化学科 3年
奥山 思さん

(山形県 新庄南高等学校出身)

人間学部 人間文化学科 3年
後藤 桃子さん

(宮城県 多賀城高等学校出身)

Talk



〔輪田〕人間文化学科を選んだのはどうしてですか？

〔奥山〕私は東アジアの文化や言語を知りたいと思ったこと、また地域創生や学校などにも興味があったので、多様な分野を学べる人間文化学科を選びました。

〔後藤〕私は英語教師をめざしていますが、英語教育に関する知識に限らず、幅広い知識を身につけて自分の強みにしたいと思いました。英語だけでなく、英語圏以外の文化も学べる人間文化学科は私にぴったりでした。

〔輪田〕奥山さんは公務員志望でしたね。

〔奥山〕はい。地域と関わる仕事をする市役所職員になりたいです。中国語検定にも挑戦して、将来仕事に役立てることができたらと考えています。地域の子供たちと触れ合うボランティアへの参加も意義深い経験でした。

〔後藤〕中国語のスキルも伸ばしたいので、私も中国語検定に挑戦したいです。昨年は中国語スピーチコンテストにも参加しました。中国文化・文学研究室では、中国における識字率の変遷と日本に住む中国人の識字率の実態を学ぶ機会があり、それはとても興味を惹かれました。

〔奥山〕オンラインで中国の大学生とコミュニケーションをとっていますが、交流をしていると日本文化の良さに気づかされることも多く、改めて日本文化についても学んでいます。

〔輪田〕公務員や教員という職業に欠かせないのが、他者を理解する目線です。たくさんの、さまざまな人との出会いが自分を見つめ直す最高の機会となりますが、ゼミナールでの中国理解はその入り口。今を生きる同年代の中国人、文献で学ぶ遠い過去の中国人が何を考えて生きていたのか。自分の未来を見据え、貪欲に、柔軟に学んでいきましょう。